

【巻頭言】

学友会総会・同窓会に集まりましょう！

理事 笠井俊文(49 回生)

京都医療科学大学は 2007 年に開学し、今春はじめて卒業生を出しました。大学になって 4 年が過ぎ、今年度は京都医療科学として 5 年目を迎えることになり、新しい一歩が始まりました。これもひとえに学友会の皆様をはじめ、支部・本部役員、関係各位のご協力の賜物と感謝申し上げます。

大学受験生の大幅な減少に伴い、いままでの大学が学生を選択する時代から、学生が大学を選択する時代になってきています。また、少子高齢化が予想よりも早く進む兆しが見え始めており、労働人口の減少もすでに始まっています。このような状況下で、近年崩壊に瀕している年金や健康保険の制度を立て直すべく、政府や各政党の議論が盛んに行なわれています。しかし、これらの制度も、広い世代が関わる世代間のシステムがうまく循環・機能する必要があります。このためには、若い人はこれまでの社会を支えた年輩の方々に感謝し、年輩の人は現在の社会の発展に尽くしている若い人々に感謝する気持ちが大切です。これらの世代間のシステムを上手く循環させる必要があります。同じように幅広い世代で構成されている学友会のような同窓会組織は、これとは逆の世代間の循環を創り出さなければ持続性が保証できないように思います。

私達卒業生は、専門学校・短期大学、京都医療科学大学という立派な歴史ある学校で学ぶ幸運を受け、そして学生時代に先生方との公私にわたるお付き合い、様々な活動や行事で人格を磨き交友を深めました。このことは、それぞれご自身が今日の社会での活躍の源になっていることに思いを馳せ、後輩たちが意義ある学生生活を持てるよう多少の恩返しをする。このような精神が正循環となって母校が永遠に発展するのだらうと思います。母校との関わり、あるいは直接的な母校への恩返しという習慣がなければ、同窓会組織は次第に衰退の道をたどることになると思われます。

幸い学友会会員の大半は、「終身会費を納入した者は終身にわたり正会員の権利を有する。」に該当する正会員で年会費の発生はなく、年 4 回の「学友だより」により母校との関係が保たれています。また、隔年に開催される学友会総会、全国各地の支部総会、それに卒業同期による同窓会があります。

同窓会とは、同じ学校を卒業した仲間の親睦のための団体です。あらゆる技術の進歩が著しい昨今、放射線画像診断や放射線治療技術も例外ではありません。

高度な医療現場では、より明瞭でかつ信頼できる画像が求められている。また、医療現場の環境も時代とともに刻々と変化しています。学校で学んだことだけでは通用しない場面がほとんどです。そこで情報交換が必要になりますが、その一端を同窓会が担っていると考えられます。レストランや居酒屋で飲食をともにしながら、昔話を語ったり、近況を報告しあったりする楽しいひと時の会合が、同窓会や支部総会と思えます。

まだまだ流動的に変化する学友会ですが、「同窓の繋がり」をこれからも活動の根本原理に、会員相互の交流をバックアップしていきたいと思っています。同窓生の皆様には大学を誇りに精神を磨き、大学の発展に今後とも応援をいただけるよう、開かれた大学として活用できるよう、同窓会などあらゆる機会を利用したり、交流したり、情報交換など同窓会の声を届けられる組織としたいと願っています。

最後に、今年度は 5 月に学友会総会が京都市で開催されます。是非、一人でも多くの会員に集まっていたり、準備委員会が頑張っています。年賀状だけの交流・メールだけの交流だけでなく、実際に参加して懐かしい友達に会いに来て下さい。役員一同お待ちしております。

以上